

記念講演 & 展示会
&
映像上映

コルチャック先生 講演と学びのタペ&パネル展

コルチャック先生の
大きな遺産
Big Heritage

「子どもはだんだんと人間になるのではなく、すでに人間である」

コルチャック没後 70 年そしてコルチャックがその院長を勤めた児童擁護施設「孤児の家」創設 100 年ということから、今年ポーランド政府が定めたコルチャック年です。各国で様々な企画・イベントが行われています。

日本でも日本ヤヌシュ・コルチャック協会の協力のもとでイベントが計画され、11 月 20 日にまず札幌で、そして 11 月 22 日には東京(駐日ポーランド共和国大使館)で講演会などが開催されることになりました。札幌では当協会の後援をいただくことになりました。 塚本 智宏

企画内容のメインは、ポーランドからワルシャワ大学の教授 W.タイス先生をお迎えしての講演と A.ワイダ監督の『コルチャック先生』の上映です。タイス先生は二度目の来日ですが札幌は初めてで楽しみにしてらっしゃいます。教育学が専門で、講演テーマは「ヤヌシュ・コルチャックー 子どもの発見と教育改革」が予定されています。世界で様々な進行する教育改革のなかで、「子どもから」の真の改革をと訴えられるのではと期待しています。ぜひ多くの皆様にお聴かせしたいと思います。誘い合せの上ご参加くださいますようお願いいたします。

さらに講演の後、『コルチャック先生』の上映です。1990 年に日本で上映され、その後子どもの権利条約との関連や戦後 50 年という節目近くにあつて、各地で上映運動が進められたことを思い出します。今回は、その”最後の行進”の目撃談や証言といったものにも触れてこの事実を追求しこの行進の意味も考える企画も考え、観賞+学びの機会にしました。最近は入手も難しくなった作品です。どうぞ多くの方にご覧になっていただきたいと思っています。講演等に関わる資料パンフレット(500 円)を用意しています。

▲以上は午後 5:30~9:30 の企画。



▼午後 1:30-5:00 はオプションで無料の企画です。コルチャックは“子どもの権利条約の精神的父”あるいは“子どもの人権のフロンティア”といわれたりして世界で有名なのですが、それはコルチャックの子どもを尊重しようという考え方が土台となっています。

その思想がぎっしり詰まった作品「子どもをいかに愛するか」(1918)や「子どもの尊重される権利」(1929)の内容紹介などを、今回の昼の部の企画でパネル展示を準備しました。ぜひこちらもご覧になっていただきたいと思っています。(つかもと・ちひろ=会員)

2012 年 11 月 20 日 (火)

- パネル展 ● 13:30~
- 記念講演&映像上映 ● 17:30~
- 感想交流 ● 21:10~

札幌エルプラザ 3 階ホール
(札幌駅北口地下歩道 12 番出口直結)
500 円(資料代としてチケット購入)

- 主催 JKA 日本ヤヌシュ・コルチャック協会
ポーランド広報文化センター
- 問い合わせ先: 塚本智宏
(JKA 理事・東海大学教授(札幌キャンパス))
korczaksapporo@gmail.com

※ 詳細は同封のフライヤーをご参照。



—— 2012コルチャック年 特別記念企画 ——
コルチャック先生の遺してくれたもの
 講演／展示会／映像上映／新刊書籍紹介
講演 ◆ “子どもの発見と教育改革”

皆様へのご報告とお礼

コルチャック年 2012 札幌イベント開催、
無事終了とその後について



塚本先生の解説付き、パネル会場風景
熱心に耳を傾ける参加者たち

昨年 2012 年はポーランド政府・国会が制定したコルチャック年にあたり、日本では札幌と東京で開催した記念行事にそれぞれ 120 名前後、会員の皆様をはじめ多く方のご参加・ご協力をいただきましたことを、改めてお礼申し上げます。

塚本 智宏



充実したパネル展に感嘆の声も

11 月 20 日、札幌では、W.タイスワルシャワ大学教授の講演(佐光さんの通訳)、映画『コルチャック先生』の上映、コルチャックの子どもへの権利思想に関する展示、塚本のコルチャック先生の「最後の行進」に関する小講演、という具合で今から考えれば欲張りな企画で、とくに展示はその準備などには協会のみなさまの応援があつてようやく実現に至りました。映画・講演・展示などそれぞれにご感想・ご意見などたくさんありそうでしたが現状でなお把握しておらず、今後のためにも何かお声をお寄せいただけるとさいわいです。



講演するタイス教授

翌々日は東京、ポーランド大使館で同様に講演*と展示などがありました。会場は埼玉大学の小田倉いずみ先生(コルチャック研究者)の大学学生のボランティアの応援のもと、ビデオ上映企画で同先生がイスラエルから持ち帰ったコルチャック先生の教え子(高齢)の方の「コルチャック先生」についてのお話も興味深かったです。私は簡単な報告をさせていただいた他、展示の写真を見ながらポーランド大使にコルチャックとはどのような人物だったのかをお話する機会に恵まれました。そのほか、講演終了後タイス先生やコルチャック協会関係者が当日参加者とお茶菓子を介しながらの懇親会も有益でした。様々な婦人団体や教会、また人権団体の方などと現在子どもたちや福祉の問題などに関連したお話で勉強の機会となりました。



(左から) タイス教授、通訳の佐光事務局長
握手するの霜田副会長

* なお、タイス先生のご講演については、東京での講演を塚本が勤務する大学の紀要に記録として残しましたので入手されたい方はご連絡ください。紀要の抜き刷りをさしあげます。

(講演記録: W. タイスワルシャワ大学教授「子どもは人間 ―コルチャックの教育遺産―」の紹介によせて、東海大学国際文化学部紀要第5号)

さて、国内でのイベントの後、世界各地のコルチャック年行事のいわば締めくくりとして、12月4・5・6日ワルシャワにて国際会議が開催され、参加してまいりました。関連イベントとして簡単にご報告いたします。

この会議の主催者はポーランド政府子どもの権利オンブズマンで、現在その長官は若く42歳のマレク・ミハラック氏(タイス先生のパートナーバルバラ・タイス先生の教え子)です。▼4日は、旧大統領官邸の比較的小さな講堂のようなところで80名くらいの国内外の研究者が集まり、「子どもの尊重される権利―21世紀の挑戦」と題して、朝から晩まで報告が続きました。塚本は日本の子どもの(権利)状況とコルチャック思想に注目する理由というような内容で報告。参加者のなかにはずっとコルチャックに関心を持ち続けているヨーロッパ人権委員会代表のトーマス・ハンマーベリイ氏もおり、日本の教育問題にも耳を傾けていただきました。

▼5日は、ポーランド国内の子どもを擁護・保護するためのNGO諸組織の報告、コルチャックに関する新作オペラ公演や記念式典に参加。そこではシュピルマン夫人にもお会いしました。▼6日は、世界のコルチャック協会の代表が開設200周年となったクロフマルナ孤児院の記念施設が新装オープンとなり、そこで意見交換・交流が行われるとのことでした(この日は不参加)。

ポーランドでは2012年コルチャック年を記念して、ポスターコンテスト(テーマ「そこにいるのは子どもではない。人間だ。」)が行われていたようです。そのポスターの受賞作で公式ポスター、子どもの手と大人の手をあわせたポスター＝写真右＝がとても気に入りました。

報告の最後に掲載させていただきます。

“Dziecko to człowiek”

(つかもと・ちひろ) 運営委員



コルチャック先生と子どもたち(1930年頃)



東京会場でも大きな関心を集めた



2012年コルチャック年記念ポスターコンテスト受賞作